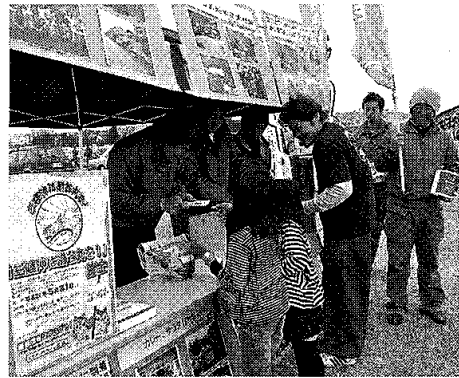


瀬谷区民、漁船を買う

イベントでブースを出すなどして募金活動をした一横浜市瀬谷区



「漁がしたい」。岩手県大槌町の漁師の言葉が始まりだった。被災した漁師たちに船を贈ろうと、横浜市瀬谷区で3月、働き盛りの男たちが有志の団体を結成。協力してくれる人々への感謝の思いを胸いっぱい、寄付金集めに燃えている。

岩手・大槌の漁師応援

団体の名は「三陸沖に瀬谷丸を」。代表を務める横浜市瀬谷区の板金業、露木晴雄さん(32)は、東日本大震災直後、仲間と大槌町に炊き出しに通った。たまたま行った先が漁師町の安渡地区。以来、漁師たちと親交を深めてきた。

燃える「男衆」40人 目標3千万円

ながら語らっている。佐藤さんが涙を浮かべて言った。「船が欲しい。漁がしたい。海に出てーんだ」。安渡地区には家や船を失った漁師が大勢いた。震災から半年経っても仕事のめどは立っていない。瀬谷から船贈っちゃおうぜ



夜、商店街の一室に男たちが集結。寄付金集めの工夫を話し合った。横浜市瀬谷区

「！」。とっさに露木さんが言った。19トンの漁船は約2億円。国の補助金などを除いても3千万円が必要だ。露木さんの声かけで、瀬谷区の男衆約40人が集まった。夜な夜な話し合いを続けるメンバーの中心は30、40代の経営者たち。印刷業、医師、会計士など職はバラバラだが、会議は毎回

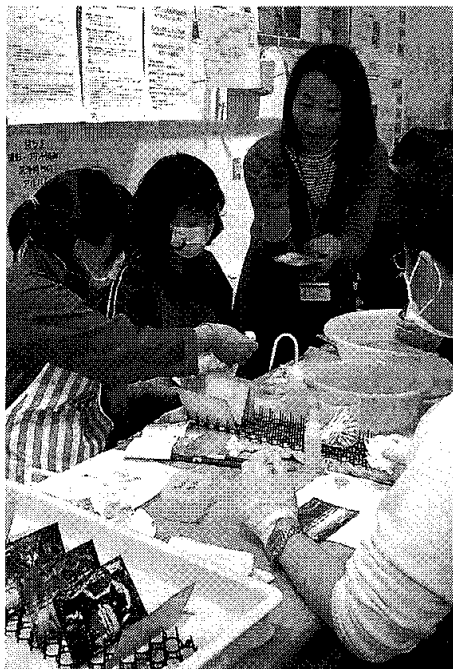
「ありがたう」と言う。このように、いろいろな地域に広まればよいと思ってい

振込先は横浜信用金庫瀬谷支店 普通口座549952。問い合わせは瀬谷医院(045・303・1191)。

あの人に届けたい

夕方6時。横浜・みなどみらいの三菱重工横浜ビル1階の空き店舗に、仕事帰りの人々が20、30人集まる。手早くエプロン、マスク、手袋で身支度すると作業開始。津波をかぶった写真を洗って送り返す「MM思い出返し隊」には、累計1千人以上が参加した。「隊長」で三菱重工勤務の竹中麻希子さん(37)は昨年、節電休暇の夏休みに被災地で写真洗浄のボランティア

写真洗浄で被災地と絆



みなどみらいの三菱重工ビル内空きテナントで、隊長の竹中麻希子さん(中央)ら「MM思い出返し隊」は、岩手県陸前高田市から送られてきた写真の洗浄を続ける。横浜市西区

MM思い出返し隊

「これなら技術指導を要請した。浜でもできる」と帰るなり「絶対やる」という思いが通じ、会社は場所の提供と事務引き受けを即答して

くれ、富士フィルムも全面支援を快諾。2週間後の8月11日に始動した。最初の5カ月は宮城県名取市閑上地区、今は岩手県陸前高田市が対象だ。アルバムからはがし、ハケで砂や泥をはらう。水やアルコールで洗い、乾かす。乾燥後は新しいポケットアルバムへ。作業自体は簡単だが、どれも「だれかの思い出の1コマ」だから自然に扱いは丁寧になり、根気がいる作業も和やかに続く。初めは写真をとんどん送り返して満足していたが、最近は少し変わったと竹中さんは言う。「遠くで現地の思いを理解するのは難しいが、理解しようと考え続けることが大事。写真の返送自体より、被災地と私たちが新しくつながるきっかけになることに意義がある。今は思いますが、十分な隊員が集まった今も、門戸は閉ざしていない。(織井優佳)

支援するには

に参加費200円。ブログ (http://blog.livedoor.jp/shahin_senjo/) で概要確認を。活動は月水金の夜と、土日祝日の午前と午後。初回

3・11から未来へ